

「SASEBOまち元氣協議会」の設立

三浦地区みなとまちづくり計画などと交流エリア開発事業等を契機とした、まちなかの魅力向上に関しては、本年3月定例会市議会、中心市街地の魅力向上に向け、させほ五番街と既存商店街、行政とが一体となった意見交換の場が設置されるよう最大限努力していくことを答弁しました。

その後、関係者の皆さまの意見調整を経て、6月26日に、三ヶ町、四ヶ町、京町、戸尾の各商店街、フレスタ佐世保、させほ五番街、商工会議所、本市を含めた推進組織である「SASEBOまち元氣協議会」の設立に至りました。

この協議会は、まちなかの新たな魅力創出、活性化を推進するための事業の立案や、まちなかの環境の機能向上に関する検討などを行うとともに、それに資する人材の育成を図りながら進められることになっています。

すでに3回の協議会や、人材育成を目的とした未来塾を開催されており、新たなまちづくりに向けて、民間レベルの取り組みや、官民連携による具体的な取り組みなどについて、協議・検討が行われているところであり、今後、このような取り組みを中心市街地のさらなる魅力向上につなげていきたいと思えます。

豪州コフスハーバー市との姉妹都市提携25周年記念事業

8月19日から25日、豪州コフスハーバー市との姉妹都市提携25周年を記念し、関係団体の皆さまなどとともに「同市などを訪問しました。」

この度の訪問では、「コフスハーバー市にて姉妹都市提携25周年記念式典を行うとともに、現地豪日協会の皆さま方との交流を行い、心温まる歓迎の下、両市の相互理解を深め、一層の友好・親善を図ってきました。式典には、創立30周年を迎える佐世保日豪協会の訪問団の皆さま



コフスハーバー市のデニス・ナイト市長(右)に鯉のぼりを贈呈した朝長市長(左)



本県代表として高総体に出場した佐世保北空手道部。女子団体組手(上)と男子団体組手(下)。

まも同席されました。

コフスハーバー市との姉妹都市提携は、まさに民間主導による先駆的事例でした。今後も広く市民間の交流が促進できるよう、佐世保日豪協会をはじめ民間団体の皆さまと緊密に連携を図っていききたいと思えます。

また、今回の訪問に当たって、経由地であるシンガポールや豪州メルボルン市において、統合型リゾート施設、いわゆる「R」の視察を行いました。今回の視察や意見交換の中で、それぞれの国による社会的影響

への対応が確認でき、かつ「R」が持つ雇用創出、地域への大きな経済効果を直接確認できたことは、本市にとって大きな成果であり、今回得た知見を今後の政策推進につなげていきたいと思えます。

全国高総体「第40回全国高等学校空手道選手権大会」

8月6日から9日まで、平成25年度全国高等学校総合体育大会が大分、福岡、佐賀、長崎の北部九州4県において開催されました。

本市では第40回全国高等学校空手道選手権大会が開催され、全国からの参加者、観覧者は延べ約3万6千人に上りました。

インターハイ開催は平成15年の長崎ゆめ総体以来10年ぶり2回目でしたが、地元の高校生や関係者が中心となり、「おもてなしの心」で大会をサポートしていただき、盛会のうちに閉会することができました。

素晴らしい試合を披露してくれた選手や関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

長崎がんばらんば国体佐世保市競技別リハーサル大会

来年10月に開催する長崎がんばらんば国体に向けて、本市では6月から競技別リハーサル大会を開催していますが、この大会は競技会運営の習熟や市民の皆さまへの周知、開催機運の醸成などを図ることを目的として実施しているものです。

今後は、これまでの大会で抽出した課題等の改善に努め、来年の本大会を万全な状態で迎えられるよう準備を進めていきますので、引き続きご協力をよろしく願います。

佐世保勢の活躍

7月に開催された「第95回全国高等学校野球選手権記念大会長崎大会」で、佐世保実業高校が見事優勝し、2年連続5度目の甲子園出場を決めました。鹿児島県代表の樟南高校と対戦し、健闘むなしく1対0で惜敗しましたが、佐世保を全国に大きくアピールしてくれました。

長崎がんばらんば国体佐世保市競技別リハーサル大会



1 ジャパンオープントーナメントでシュートを放つハンドボール男子「長崎社中」の主将三宅潤選手(佐世保西高講師)。3年連続で準優勝だった長崎社中は本大会で念願の初優勝を果たしました。2 総合グラウンド庭球場などで開催された全日本実業団ソフトテニス選手権大会。3 全日本社会人ターゲットアーチェリー選手権大会リカーブ一般女子の部で3位入賞した早川漣(れん)選手(長崎国際大・県スポーツ専門員)。4 同大会リカーブ一般男子の部で3位入賞した西村義貴選手(和信産業)。